



起業は手段のひとつ、 ふるさとのために自分 ができることをしたい

業してから、母校の県立萩商工高等学校でプレゼンテーションの講義をしたり、FMの薩長土肥4局特別番組にも携わらせていただきました。こうした関わりの中で、ふるさとで働くということの意味が、少しずつわかってきたような気がします。

Over Wallに込めた想い

社名の「Over Wall」は、壁を越えるという意味です。言葉や映像、様々な手法を使って、相手に分かりやすく自分の想いを伝えること、それによって、立ち足る壁を乗り越え、人と人の心の壁を取り去り、



制作した動画の1コマ

心が繋がるサポートができたと思っています。私は、起業を手段のひとつとして選択しました。まだスタートラインに立っただけです。少しでもふるさとに役立てるよう、やらなければいけないことがたくさんあります。「山口だから出来ない」ではなく、「山口だからこそ出来ること」を考えて、ワクワクするようなこと、おもしろいことしていきたいと思っています。

※起業カレッジとは
起業に興味がある方から起業後間もない方までを対象に、各段階に合わせて起業の基礎知識から学び、実践的な事業計画書の作成までをおこないます。今年度は終了しました。



Over Wall

代表者：大草 快貴
所在地：山口市大内御堀 1564 - 2

TEL：083 - 902 - 6581
E-mail：info@over-wall.jp
HP：http://www.over-wall.jp
事業内容：販促用動画制作・プレゼン支援・web販促事業

経営者への憧れ

私は、長門市三隅の出身です。実家が代々小売業を営んでおり、祖父や両親の働く姿をそばで見て育ちました。ビジネスの基礎を学ぶことができる商業高校を選択したことは、自分にとって自然なことでした。しかし、父親から「家業は気にせず、自分が志すことをしなさい」と言われ、自分の将来を改めて考えました。学生時代、IT企業やベンチャー企業がテレビを販促しており、企業を一人で動かす姿にとっても刺激を受けました。自分も20代のうちに何かカタチをつくりたいという思いが強くなり、それが起業へと繋がっていったと思います。

Uターンを決意、ふるさとへ

大学は大阪に行き、そのまま法律事務所に就職しました。地元は離れましたが、愛着や誇りはありましたし、長男なのでいつかは帰らないといけないと思っていました。そして、Uターンするなら早い方が良いとも考えました。27歳の時に山口に戻って就職しましたが、20代で起業するという気持ち更に強くなっていました。起業することを



収録の様子

周囲に公言し、起業家の集まりにも積極的に参加しました。そこで紹介されたのが、山口商工会議所の起業カレッジ(※)です。

不安を乗り越え、起業を実現

起業カレッジでは、金融機関をはじめとする支援機関との繋がりもできました。また、自分の事業計画を客観的に見ることができたことは、大変有意義でした。ただ、起業について学んだ分、実際にこの事業を続けていけるのかという不安も出てきました。しかし、このまま何も動かないことが怖くなり、腕を試してみたいと、津和野町や西京銀行が主催するビジネスプランのコンペにも参加しました。そこで評価を受けたことで、今しかない!と決心が付き、20代のうちに起業しました。



母校での講義

ふるさとで働くことの意味

事業によっては、都会にいる方がニーズも多く起業もスムーズだと思います。しかし、私の根底には、ふるさと山口・三隅のために役立ちたいという思いがあります。起